

第32回 軽井沢22世紀風土フォーラム基本会議

【日時】 令和5年3月27日（月） 19:00～20:13

【場所】 オンライン形式による開催

【出席者】 基本会議委員：石山武委員、稲葉俊郎委員、金山のぞみ委員、
袖山尚委員、福原未来委員、鹿ノ戸彩委員、
小出恵委員、三島勇委員

内 容

【会長】

本日も遅い時間にも関わらずお集まりいただき感謝する。元々今回の会議は1月30日に開催する予定であったが、町長が変わり今後の体制がどうなるか不透明なところがあるということであったため、会議開催を延期させていただいた次第である。

先日、私と【副会長】、ファシリテーターの【A委員】に同席いただき、【町長】に面談の機会をいただいた。本日はその面談の内容を皆様に共有し、今後の基本会議についての報告もさせていただきたい。

早速ではあるが先日の町長との面談について、その内容を口頭になるがご報告させていただきます。【町長】からは、今期のテーマである「軽井沢ブランドの持続と進化」というテーマについては、「テーマ自体がざっくりとしすぎている」との意見をいただいた。そのうえで今後は「自然環境」を一つのテーマとして取り上げることにについては、町長の公約の一つでもある「“自然環境の保全と再生”にも繋がっているので良いと思う」というご意見をいただいた。「自然環境」ということについては現在町で策定を進めている環境基本計画や、軽井沢で活動する自然環境団体、自然保護団体などの活動ともうまく融合していくことができれば、なお良いのではないかというお話もあった。町長は「町政を理解してもらうためのチャンネルを増やす」という意味で基本会議に対して期待をされていた。

新しく軽井沢に来る方々に軽井沢の良さを知って貰ったり、軽井沢の方向性を示したりといったことを基本会議で行っていく必要があると考えている。ほかに町長からは「この基本会議という組織があるからといって「何かをしなくてはいけない」とか、「本来の目的を見失うことのないようにしてほしい」というご意見もあった。

「基本会議の4期目が終わったときに「何か結果を残さなければいけない」と活動するよりも、目的を見失わずに活動した結果、何も残らなかったのであれば、それならそういう形でも良いと思う」というふうにおっしゃっていた。結びには「常にしっかりと目的を確認しながら基本会議が形骸化しないように今後も活動してほしい」という激励もいただいた。

また、芸術祭については、「基本会議との関連性を持たせるという意味でも「環境」をテーマに組み込みながら、自然環境について住民の理解を促すような活動を行ってほしい」「芸術祭自体に何かストーリー性を持たせても面白いのではないか」というご意見をいただいた次第である。【副会長】あるいは【A委員】から補足があればお願いしたい。

【副会長】

町長が「何も残らなかったとしても良いと思う」とおっしゃったのは、必ずしも成果を急がない対応、目的さえ見失わなければ、多様な価値観の対話の中で当然着地点が変わることもあるだろうと、それも一つの成果である、との意味合いでお言葉を頂戴したように記憶している。この表現だけ切り取ると、風土フォーラムに対してあまり多くを求められてないようにも聞こえるかもしれないがそうではなく、その場に居て感じ取れたのは、目的が見定められて進み続けた先の、例えば自然環境への住民理解と協力の確保とか、地域住民の参画へ向けた“期待を込めたニュアンス”であったように思う。

風土フォーラムについては、おおもとを辿れば「軽井沢未来構想会議」で提唱された風土自治も、「住民自治」とほぼ同じ意味で扱われているものと思っているが、「住民自治」という言葉だけをピックアップすると、行政が切り離されている印象を持つ人もいるのではないかと予想できる。あくまで私の認識であるが、「公（おおよけ）」と「私（わたくし）」のどちらか二元論ではなく、「共」、共同体の「共」、色々内包された地域住民レベルでの対話の場、町の未来を模索する場を元々目指したものであったと考えている。目の前のことに捉われすぎず、本来の目的を意識する状

態が維持される中で、構築していくこと、実行されていくことが必要である、ということ町長はお話されていたように感じている。

少し言いにくい話だが目的に関する話では、この風土フォーラム自体が限られた範囲でのネットワークであることのご指摘もあった。そのような風土フォーラムの運営に関する批判や疑問が投げかけられていて、決してそれらは大多数ではないものの、ローカルとはいえメディアの影響力もあって、少なからぬ町民から投げかけられているところである。だからこそ広く地域住民を巻き込み、（情報発信の）チャンネルを増やしてほしいとの基本会議への期待に繋がっていたものと思うのだが、そうした疑問を寄せ付けないほどの説得力が現状、この風土フォーラム基本会議には備わっていない、という町長からの厳しいご指摘だとも受け取っている。

【会長】

ではその町長との面談を踏まえて、今後のスケジュールについて説明させていただきたい。

新聞報道などでも触れられているところであるが、事務局である「都市デザイン室」という組織は一旦なくなり、この風土フォーラムも含めて新たに「まちづくり推進室」となり4月以降に業務が引き継がれる、という形になった。まちづくり推進室の新体制が整えられるのが6月になるとのことから、次回以降の会議開催が7月以降となる。

今回の会議が第32回となるが、皆様からもご意見をいただきながら、前回の基本会議でも話にあがっているところであるが、7月に軽井沢の自然環境についてゲストスピーカーを招いてお話をさせていただく機会を設ける予定としている。このゲストスピーカーについては、皆様からも候補者に関するご意見をいただき、私にて選定させていただいた。

選定の経緯についてご説明する。「NPO法人生物多様性研究所あーすわーむ」というところに所属されている【知識経験者】にお話しいただけるように検討している。その理由として【知識経験者】は軽井沢の自然環境に関して、皆様からご意見いただいた候補者の中で最も詳しいということがある。軽井沢の自然環境に詳しいということで、まずは【知識経験者】からお話をいただいた上で、住民の皆様との理解を深めることができればと思っている。

以上が今後の活動についての説明となるが、皆様からもご意見をいただきたい。ここからの進行を【A委員】へお願いし、皆さんへもご意見の確認をお願いしてもよろしいか。

【A委員】（ファシリテーター）

【会長】から町の新体制の兼ね合いで町長と面談をし、その上で今後のスケジュールについてと、自然環境の学びの場を設定したいということでお話いただき、ゲストスピーカーとして皆さんからそれぞれご推薦をいただいたところの中の【知識経験者】ということでお示しいただいた。これらについて皆さんのご意見を伺えればと思う。もちろん、それについて以外でも結構である。前回の開催から2ヶ月以上経っている中で、気づきや今後こういった方が良いのではないかと、といったことがあればぜひご意見いただきたい。お1人2分程度でお伺いできればと思う。

【B委員】からお願いできるか。

【B委員】

今後の状況がよくわからない中で、この基本会議組織自体がどうなるのかなという気持ちがあったのだが、さきほど会長より丁寧にご説明いただき、状況が理解できた。町の体制が変わっても、ありがたいことにこうして基本会議委員として会議に参加させていただいている。そうなったからにはやはり参加している意義、何のために基本会議があるのかということを考えている。冒頭では「必ずしも成果を急ぐ必要がない」というようなお話もあったものの、こうして時間と費用を費やして、委員として任命していただき参加させていただいているので、何のためにこうして集まって、何ができるのかということを中心に具体的に、それを町民の皆さんに伝える場でもあると思うので、きちんとわかりやすい形に持っていかなければいけないなということを考えている。

私自身会議の委員として参加させていただいているメンバーの一人であるが、客観的に聞く立場が続いていると思うので、この会議の内容をもっと広い形で伝えていく、そういうことをやっていきたいなと改めて思った次第である。引き続き、よろしくお願ひしたい。

【A委員】（ファシリテーター）

続いて【C委員】、お願いできるか。

【C委員】

私も基本会議がどういう状況になっていくのだろうかという不安の中で、プロジェクトチームとして、「ざわざわ芸術祭」を昨年の12月の住民会議、それから後ほどご報告させていただくが、先週も住民会議を開催させていただいて、芸術祭へ向けた段階を踏んでいる中で、風土フォーラム委員として何ができるのだろうかということを、まだ模索しながら進めている次第である。こうして委員の皆様と改めて顔を合わせることができたことがまず良かったと思っている。次回の基本会議としての活動に6月までブランクが空いてしまうのかもしれないが、そんな中でも自覚も持ちつつ、何かできることがあればというメンバーと話ができると良いなと思っている。

自然をテーマにしたゲストスピーカーについては、選定された方のことや「あーすわーむ」のことにに関して全く異論はない。私自身、その方のお話をお聞きするのを楽しみにしている。

【A委員】（ファシリテーター）

お聞きし忘れてしまい申し訳ないのだが、【B委員】は学びの場の設定についてやゲストスピーカーの人選について、何かご意見があればお聞かせいただけたらと思うがいかがか。

【B委員】

異論はなく大変興味深いと思っている。前回会議での話で印象的だった点として、「何が正解か」ということではなくて、「議論すること自体に意義がある」ということだったかと思うので、ゲストスピーカーのお話から学ぶべきものを学んで、自分で考えるところを自分自身でよく考えるというプロセスをちゃんと作っていくことが大事だと思っている。また、そのイベントに参加しなかった人にもそれらの内容を伝えていけるように、せっかく素敵なお方にご登壇いただくのであれば、どういう学びや議論が行われたのかということもきちんと広く伝えていけるプロセスまで考えたいし、考えていくべきなのではないかと思っている。

【A委員】（ファシリテーター）

では次に、【D委員】からお願いしたい。

【D委員】

私は基本的にこの基本会議という組織は、「前町長の私的諮問機関」というふうを受け取っていたので、（町長が変わったことにより）1回解散してまた新たに作るのかと思っていたところがあり、（今回の会議開催に際し）意外な気持ちでした。

私は公募という立場で委員を担ってきたので、前町長のもとでこういう委員会をやるのだなという気持ちでここまで務めてきた次第である。したがってまず、本当にこの委員会がこれまでと同じように今後も持続可能なのかどうかという点に疑問がある。

はっきり申し上げると、私は委員会の委員を辞めようと思っていたぐらいなので、新たにきちんと組織を作るのであれば作り直すぐらいの気持ちがないと、本当に今の町長の思いを汲んできちんとした活動ができるのかどうか、非常に疑問である。もしそういう形（新たに組織を作り直すなどの状況）にならないとすれば、私自身委員としての在り方を考えなくてはいけないと思っている。

「自然を中心に扱ってほしい」という町長の気持ちは非常によくわかるし、そうしていきたいなという気持ちもある。【知識経験者】を推薦したのは私であるということもあるのでその点に関しては全く異論ない。【知識経験者】を招いて対話していくということは非常に良いことだと思う。

しかし、先ほどの話に戻るが、この委員会はこの委員会のままで良いのかどうか、という根本的な疑問があるので、その辺をきちんと解消していただかないといけないと思っている。まちづくりの部署がきちんとできてからだと思うが、一から作り直すのか、今のままで体制を引き継ぐのか、その辺を明確にして欲しいということを町の方へ求めたいと思う。

【A委員】（ファシリテーター）

次に【E委員】からお願いしたい。

【E委員】

今、この委員会の背景や役場の体制が変わったことなどについてお話を伺ったが、私自身、風土フォーラムは元々軽井沢町の中で必要なものであって、まちづくりに関

する様々なことを考える住民の方々が集まって、住民の理解を深めるとか、課題を共有化していくとか、そういう目的があったので、おそらく町長や体制が変わっても本質は変わらないのではないかと考えている。ただ、意見として出ているように、アプローチの方法や進め方など、今までのものを見直すとか方向の転換など、そういう必要性が出てきているということだと思う。そうした中で風土フォーラムは、先ほど町長との面談内容の話もあったが、目的やこの基本会議の目指すところを一度再確認することは必要なのではないかと考える。今回、「自然環境」というのは元々町長が変わる前からこの会議においてもテーマとして取り上げようというふうにしてきたことなので、そういった具体的なテーマを課題として設定し、それに対して活動しながら住民の理解を深めるとか、自然や景観に対する理解を深めるとか、それについてみんな考えていく、そういった場を作り出すこと、そういうことがこの風土フォーラムの目標なのではないかと考えている。目的自体は今までと変わらないわけであり、重点とすべきものは「自然保護」「自然環境」としているのだから、あとはアプローチの仕方や向かうべき方向の軌道修正などの見直しあるにしても、そういう活動を進めていくこと自体には賛成である。

具体的にゲストスピーカーの話が出たが、今申し上げたような目的、目標に従ってやっていくとすると、今期残りの1年間について、ここまでのお話では来年1年間ぐらいは同じメンバーでの基本会議としていくのかと思うが、どういう考え方で進めていくのか、スパンを広げて全体として目的に合っているかどうかということを考えながら活動できたら良いのではないかと考える。

ゲストスピーカーについて具体的に候補者のお名前が出てきていて資料を見せていただいたが、目的に合った方かと思う。基本的に「自然環境」という課題を扱うということは、この軽井沢の現状をきちんと客観的に理解するということが非常に大事であると思った次第である。

いろんな課題があるが、客観的に理解すること、情報やデータなどいろんなものがあり、いろんな場所でいろんな話が出ているかもしれないが、それらを一度整理したり俯瞰的に見たりしながら「軽井沢の自然環境」を考えていく必要があると思う。そういった観点から、ゲストスピーカーを考えて選ばれば良いのかなと思う。少なくとも7月に予定として選ばれたゲストスピーカーの人選について、私自身、大変良いのではないかと考える。

【A委員】（ファシリテーター）

次に【F委員】よりお願いしたい。

【F委員】

私も【C委員】と「ざわざわ2023」について別系統で活動しており、なんとか形にしたいなと思っている。私は政治家ではないので、「自然を守る」という政策立案をして公約を実施する役割ではない。本会議もそうした場ではないと認識している。むしろ政治では扱えないような、人と人の繋がりや基盤をつくることや、町民の善意が結びついていい町をつくる方向へと進むようなきっかけづくりを期待されていると理解している。どういう町が良いと思うかの解は一つではなく、それぞれの思いが両立し共存することが大事だろうと思う。ある視点から見ると自然保護のようでも、別の視点から見ると自然破壊につながることはよくあり、それは見ている時間のスパンの問題だったり、空間のサイズの問題だったりする。そうした対話の素材を共有する意味でも、ゲストスピーカーの方に話をさせていただく機会は重要であると思う。人選に関しては、机上の空論ではなく、実際に自然環境に関わって活動されている方がいいと思う。

【C委員】と「かるいざわ ざわざわ2023」という芸術祭を介して行いたいことも、対話の土台をつくることである。対立や分断では対話にならない。芸術や音楽など、立場を越えて人と人がつながれる潤滑油を媒介して、新しい町民同士の対話が起こればいいなと思い、わたしたちもコツコツと準備をしている。規模の大小にこだわらず、何か実施してみて、小さなつながりが大きなつながりへと広がるように、呼びかけや問いかけができればいいなと思っている。

【A委員】（ファシリテーター）

では次に、【副会長】からお願いしたい。

【副会長】

前回「自然環境」と一口に言っても、草原、林、山々、或いは荒涼とした平原、気候、景観、動植物、広く捉えれば街並み、A. C. ショー氏やJ. M. ディクソン氏が故郷に似たとした風景、空気、外の人が抱く、その時々にもよる軽井沢のイメージ、どこを目指すのか、何が正しいのか、異なる見解に優劣はつけられないといった

ご指摘があったかと思うし、それはその通りだとは思いますが、問題起こりうるから一切をペンディングしましょうというわけにもいかないので、より普遍的な部分で、軽井沢の自然環境をより良くしていくために、風土にあった自然の保全と再生について町民に向けて正しい知識が得られるようなお話を、軽井沢の自然環境にお詳しい「あーすわーむ」の【知識経験者】にお伺いできればと思っている。

それから、残すべき自然、木々、土地、建築物等を町で買い取って一元的に管理するというのは現実的ではないので、土屋町長のお話にあったのだが、個人の資産であっても社会の共通資産であるという認識を持てるようにして、町全体の利益を求めること、軽井沢の環境を守ることが、自らにとってもプラスに働くといったような理念をできるだけ理解してもらうこと、軽井沢に住む人、あるいはこれから来ようとする人に広く認識を促すといった啓発は、この委員会として町のトップが変わろうとも風土フォーラムとしての目的は変わらず、町に必要なものとして残っているので、引き続き風土フォーラムの今後について考えられるのではないかとと思っている。

【A委員】（ファシリテーター）

【G委員】と【H委員】が本日欠席されているため、以上で皆さんにお話を伺った状態であるが、皆さんの意見を受けて【会長】はいかが。

【会長】

皆様のご意見に感謝する。【E委員】からご意見があったように、1年間の大きな枠で考えることも必要だと思うが、次回の会議の開催事情については、皆様からの同意も得られたということで、7月に開催する会議の講師については【知識経験者】ということで調整を進めさせていただければというふうに思っている。それと並行して年間のスケジュールについても、Slack（情報コミュニケーションツール）などを通じて皆様からのご意見もお伺いしながら進めていきたいと思っているので、引き続きよろしくお願ひしたい。

なお、【D委員】からご意見があった（基本会議組織自体の存続の）件については、町長とお話をし、今後の動きについてはどうなるかは本当にわからないが、今回の第4期基本会議については、町長のご意見、ご意向なども踏まえながら、「自然環境」をメインに扱うこととし、来年度の1年間は活動継続ということになる。それを踏

まえた結果、それ（第4期終了後）以降については何か変わるかもしれないが、このままの形で進めさせていただきたいと思っている。

【A委員】（ファシリテーター）

6月までは役場の新体制の整備期間となるため、次回開催は7月ということで、あーすわーむの【知識経験者】をゲストスピーカーに迎え、まずは学びの場を設定するというので、この第1号議案を終えたいと思うが、何かご質問やご意見のある方がいらっしゃれば、お伺いできればと思う。

【D委員】

ここまでの話だと今期のテーマである「軽井沢ブランドの持続と進化」は変わるということか。

【会長】

今期のテーマ自体が変わるということではなく、今までの会議の内容を【町長】にも共有しており、その中で我々が活動していく方向性として、まずは「自然環境」をメインに取り上げます、ということをご説明した次第であり、それ以外のものについては、また【町長】へご相談しながら進めていくという形になる。したがってメインのテーマである「軽井沢ブランドの持続と進化」に変更はない。

【A委員】（ファシリテーター）

【D委員】 よろしいか。

< 【D委員】 より了承のリアクションあり。 >

【A委員】（ファシリテーター）

では1号議題を終え、2号議案に進めていきたい。

2号議題は、プロジェクトチームの報告等ということで、プロジェクトチーム座長の

【C委員】 からご報告をいただければと思う。よろしくお願ひしたい。

【C委員】（プロジェクトチーム座長）

3月の初頭に県の元気づくり支援金の申請を無事に終え、現在はその採択を待っている段階である。プロジェクトチームとしては、「採択結果による云々ではなく、採択結果に関わらず芸術祭は開催します」という形で住民の方々と会議の中でも宣言させていただいている。運営面について、特に予算の関係についてどういうふうに運営していくのか、採択状況が明確になった段階でまた改めて頭を合わせて考えなければいけないと思っているが、協賛金や住民の皆さんといかにして手を組んでいくかという形を考えないといけないなど思っている。

昨年（令和4年）12月に開催した住民会議の参加者の方々と、「まずは企画として一歩踏み出そう」という意味で、年度末のギリギリとなってしまったが先週の3月23日に、住民会議の2回目というか1.5回目のようなニュアンスで開催させていただいた。

【A委員】にもご参加いただき感謝する。お陰様で盛り上がったと思っている。その中で今日事務局から配布いただいた「今後のスケジュール」という資料を住民会議の参加者の皆さんへもお渡ししている。

基本会議委員の皆様におかれましては前回会議から時間が空いてしまったので、今一度ご説明すると、この芸術祭の企画の中で、我々風土フォーラムのプロジェクトチームとしての「主催企画」と、住民の方々の「共催企画」、「参加企画」という3種類の企画を走らせようとしている。プロジェクトチームとしては、それぞれの企画を軽井沢町の街の中にマッピングしたような形で、11月に開催される各イベントが「いつ・どこで・何をやっている」という情報をまとめていくのが、プロジェクトチーム事務局として役割と捉えている。このプロジェクトチーム事務局は今後、「実行委員会」になるかと思う。その中でも今回、「共催企画」という、資料の青色で示した部分であるが、「ざわーずの皆さん」ということで、先ほど申し上げた先週の住民会議にご参加いただいた皆さんで、アイデアの実装に向けて一歩踏み出そう、となっている。その中では既に独自に「アーツカウンシル補助金」を申請するレベルまで企画をまとめている方がおり、「縄文土器ドキドキ」というプロジェクトである。その方々は「自分たちでも協賛を取ってきてやります」というふうに宣言してくださっているので、我々としてもそれを応援しながら11月に進めていかなければということで、気持ちを新たに奮い立たせたところである。もう一つ、高校生たちから昨年の12月の会議にてアイデアを出してくださったプロジェクトマッピングについて、「高校生主体でやりたい」という気持ちをまだ持ち続けてくださっているので、ぜひ高校生と一緒に盛り上げたいという気持ちでいる。高校生たちと同じテーブルで【A委

員】と【参加者】にも会話に入ってくださいブレスト（ブレインストーミング）しながら話をした。もう一つ参加いただいた方々のグループの中でも、いろいろなアイデアやネットワークをお持ちの方々がおり、「芸術祭イベントは軽井沢町で起こることだが、同時に11月に佐久のコスモホールで行うイベントがあって、そちらも何か端っこで連携しながら、広域の連携も意識するというのはどうか」という話が出ていて、それは「ざわざわ2023」が今後、毎年2年ごとなのか3年ごとなのか、継続的に開催していくというのを見据えた上で、既にその発想は一步どころではなくかなりのジャンプになるが、踏み出す形で話をしてくださる方々が集まってくださった、という状況であった。

以上のように、私達が考えている以上に、コアメンバーになってくださっている皆さんが本気になってくださっているというのが実際のところであり、基本会議の皆さんにも一度共有させていただきたいなと思っているところである。今ご紹介した3つのアイデアを軸に実装をしながら、次の住民会議のときには初めての方々も含めまたいろんな方々が集まってくださるイメージであり、それが3ヶ月後の「第3回」という、資料の一番右端6月ごろというタイミングをイメージしている。その段階では、今回の「縄文土器ドキドキ」ぐらいレベルで3つぐらい共催企画をプレゼンしていただいて、住民の皆さんが「ちょっと待って。私達も、俺たちも変わらないと、せっかく面白くなってきているのだから」という、そんな盛り上がりを見せるのが6月頃のイメージである。私達プロジェクトチームとしてはその前に、アイデアの実装ができている段階で「こういう動きをしてきています、ですから皆さんぜひ集まってください」という情報を、5月頃にはホームページに掲載できれば良いなと思っている。ホームページでは「ざわざわ2023」として今まで12月の住民会議から走ってきている方がいらっしやって、今後そこに向けて新たなアイデアももちろんOKであるし、場所の提供や、いろんな形の参加をお待ちしています、というのを発信しながら、6月に第3回の住民会議をオープンに開催するというイメージである。その後、参加される方々が決まってきた段階で実行委員会としてはマップ作りをおこなったり、具体的な告知を始めたり、ポスターを作って掲示したり、ということの主に行っていく感じである。

主催企画としてはこれから詰めなければいけないが、「町中にベンチ設置していく」というのがベースの企画である。「ベンチとはどういうふうなものなのか」とか「どういうコンセプトで作るのか」とか、「どういうふうに資材を集めるのか」など、これから詰めていかなければいけない点であるが、町の至るところに対話の場所

ができていくということがベンチというモノして表現されていくという意味合いである。そこを主催企画としてはこれから詰めていく段階である。11月までにどのぐらいの広がりとなるかわからない部分はあるが、2週間から最大4週間程度になるのか、あるいは3週間なのか、ポツポツといろいろな方々が企画を実施したり参加企画を実行したりして、それらがマッピングされて開催され、その模様を12月ぐらいまでアーカイブ配信をYouTubeなどを介して行っていくという形でこのイベント全体像を作り上げている。

説明が長くなってしまったが、このような形で今ざわざわのプロジェクトチームは進めている。よろしくお願ひしたい。

【A委員】（ファシリテーター）

プロジェクトチームの名前は「（仮称）」という表現はそのまま、ということでしょうか。

【C委員】（プロジェクトチーム座長）

実は組織名について準備段階であるものの、県の元気づくり支援金の申請上は「か りいざわ ざわざわ2023実行委員会」という形で町から提出しているという、少しトリッキーな状態である。上田市でも同じような形の申請の流れをとっていたこともあり 県の方でもその形で受理頂いている。「採択となったときには「実行委員会」にしてください」というのが申請時の話である。つまり県の元気づくり支援金を受けるためには実行委員会という名前になっていく、ということになる。仮に採択を受けなくてもその名前の方が良ければそれでも良いのではないかと、という考え方もあるが、まだ全然その辺については会議でも話はできていない。今のところ名前についてはそういうイメージでいる。事務局から何か補足があれば、いただきたいがここまでの説明に問題はないか。町側からの協力もかなりある。改めて感謝申し上げる。**【F委員】** いかがか。補足説明などあればお願ひしたい。

【F委員】（プロジェクトチーム副座長）

先日実施した住民会議では、色々な立場の人が面白い意見をたくさん出していた。「軽井沢でこうしたことができるのを待っていました」とよく言われた。実行委員がつくった企画を実施するのではなく、興味がある人もない人も、共に実施できるもの

は何か、そうしたことを考えている時期だと思う。特に高校生や中学生など若い世代の方々が出席され、積極的な発言をしていたのが印象的だった。そうした世代間での交流が始まっている。こうした準備会議の中で、物事が動き出しはじめていると感じている。あとは参加者の思いを実現する器をつくるのが実行委員の役割だと認識している。

【A委員】（ファシリテーター）

プロジェクトチームから現状報告をいただいたが、何かご質問、ご意見等ある方いらっしゃれば、お願いしたい。

< **【D委員】** 挙手 >

【D委員】

資料中の「トークイベント」というところに興味があるのだが、どういう形で、どういう人を呼んで、どういう会場でやるのかなという点に興味がある。

また、**【F委員】**にご提案なのだが、軽井沢病院で何か一つ企画の展開ができないものかと勝手なアイデアではあるが考えている。いかがか。

【F委員】（プロジェクトチーム副座長）

病院でも何か企画をやりたいと思っている。「おくすりてちょう」もその一環で、医療と芸術と福祉が出会える場として実施している。なぜなら、コロナ禍の中で、多くの方が病院にいらしゃった。みんなが健やかに元気に幸福で生きるために病院という場は存在していると思う。病院もそうした「場」の一つとして役割を果たしたいと思っている。職員と対話をしながら、そうした気持ちを共有する人たちで実現に向けていきたいと考えている。それとトークイベントに関しては、**【C委員】**のお考えがあればお伺いしたい。

【C委員】（プロジェクトチーム座長）

「トークイベントのような形の企画をやりたいね」と言いつつも、「やるにしても場所はホールというイメージではないような気がする」とか「できれば森の中でやりたい」などの考えにとどまっている。ベンチを作ったワークショップなのか何なの

か、人が対話を自然と生まれるような場所で「どなたをお招きするともっと広がっていくのだろうか、あるいは対話が深く深まっていくのだろうか」というところを今はまだ話し合いきれていない。なかなか話しあうために集まることもできていなかったのも、その辺りは皆さんのご意見やお知恵を頂戴したく思う。我々は「こうじゃなきゃいけない」というものがないプロジェクトチームだと感じていて、できれば町の方々と住民会議の後に意見がある方々と一緒に作りあげていくような形でも良いのではないか、というぐらいの気持ちでいる。

【A委員】（ファシリテーター）

その他、何かご質問やご意見のある方いらっしゃるか。

【B委員】

今ご説明いただいたプロジェクトチームの活動進捗について、私個人的にもとても興味があり、プロジェクトチームで進めていただいている内容も素晴らしいと思っています。私も縄文土器など大好きであるが、すごく楽しみだと思う。

会議冒頭の（基本会議の活動についての）話と絡んでくるのだが、公募委員という基本会議内での私の立場でこうした企画について「楽しみだ」ということしか言えないが、それだけで良いのかなという思いがある。基本会議とプロジェクトチームの関わり方について、自分自身の立場がよくわかっていないというのが正直なところである。活動内容について異議があるわけでは全くないのだが、私のようにプロジェクトチームメンバーではない基本会議の委員については、Slackで情報を確認して、「良いな、すごいな」と言うことだけ良いのか、あるいは何か別の対応を求められているのか、自分の立場が今よくわかっていない状態となっている。どういう立場でどのように関わっていくべきなのか、新たになった基本会議における委員の立ち位置というところとも関わってくると思う。私自身の不勉強なところもあるのだが、その辺りを具体的にご教示いただけると嬉しい。せっかくの良いプロジェクトなので、自分にできることは積極的に関わりたいと思っているし、役割を明確にさせていただいて、皆さんに教えていただけたらありがたいなというふうに思った次第である。よろしくお願ひしたい。

【C委員】（プロジェクトチーム座長）

実は私も【B委員】と同じように、プロジェクトチームを自分がやりたいから積極的に参加している次第であるが、実際風土フォーラム基本会議委員として、「ざわざわ」の活動上ではどういった立ち位置で話をしたら良いのだろうということは、毎回の住民会議ですごく迷いながら活動しているところである。今回のように町長が変わる段階で風土フォーラムというものを皆さんにどんどん前面に出してプロジェクトチームの活動をしているというので良いのかどうか、という迷いも含めて、自分の立ち位置も含めて探りながら動いていた。逆に言えば、ぜひとも住民会議や、プロジェクトチームメンバーも決定はしているが、Slackなどを通じて、ぜひ【B委員】にもご参加いただき、広報関連や情報を文章化していく作業など、見地がおありだと思うのでお力をお借りしたいなと個人的には思っている。例えば、出来るのであれば住民会議の様などをレポートしていただくとか、そんなことを依頼して良いものかどうか分からないが、もし可能であれば非常にありがたいと思う。【B委員】も最初におっしゃったように、やはり情報の発信ができてないことが課題で、町の方々、住民の方々にちゃんと伝えていかなければという気持ちがある。

私個人としてはこれぐらいしかコメントができないが、逆にプロジェクトチームに入っていなかった方がどういった動き方をしていたという事例などを事務局から教えていただくと良いのかなとも思うが、いかがか。第3期の方々の動きや活動内容などどのようなようであったか。

【A委員】（ファシリテーター）

座長からお話いただいたが、第3期でご経験のある【E委員】や、基本会議という組織としての在り方について【会長】、【副会長】にお話を伺えればと思うが、いかがか。

【E委員】

今のお話については、基本会議とプロジェクトチームの関係性、位置づけについてということであると思うが、第2期、第3期での進め方を振り返ると、基本的に基本会議は全体の運営、例えばプロジェクトチームを作るとか作らないとかそういうことを決めて、それでプロジェクトチームはもっと具体的にそれを進めていく。ポイントとしては、プロジェクトチームがある程度の時期に基本会議へ活動内容などを報告して、そこで委員の意見や評価をもらい、そこでプロジェクトチームの活動にそれを反

映してもらおうとか、節目節目で報告や基本会議全体での議論などを行うという、そのような位置付け、関係性であったと思う。

したがって、本日もプロジェクトチームから進捗報告があったが、そういった流れの中で今後の進め方について「どう思うか」などを確認する、ということかと思う。プロジェクトの中身ではない全体の大きな枠は枠組みについては、基本会議で議論して決めるところであった。第2期、第3期についてはそのような形であった。

【A委員】（ファシリテーター）

事務局からは意見はあるか。今までの進め方や、基本会議とプロジェクトチームの関係などについて、何かあればお願いしたい。

【事務局】

これまでの関係でいけば、【E委員】がおっしゃっていたような関係で異論はない。間違いはないかなと思うが、毎回、出てくるプロジェクトチームは（目的や活動内容が）違うので、住民主体であることを考えると、皆さんが差し支えなければその時々でフレキシブルに活動いただくのも良いかと思う。それを後押ししたり、足りない部分を補うのが行政側の役目だと思っている。しっかりサポートしていければと思っているが、動き方の判断は皆さんにお任せする。

【A委員】（ファシリテーター）

【会長】、いかが。

【会長】

今、【E委員】がおっしゃったように第2期、第3期と基本的な方向性は変わらないような形で良いと思うが、この基本会議は議事録が公開されるということで、ざっくりばらんなお話がなかなかしづらいところもあるかと思う。ぜひPTの方の会議にも基本会議のメンバーの皆さんに参加していただいて、まずはPTのチームのメンバーから対話がしっかりと生まれるような形を作り出していただければ、素晴らしいものが出来上がるのではないかと思っている。ぜひ期待している。

【A委員】（ファシリテーター）

その他に、プロジェクトチームからご報告いただいた内容や、ひらめいた内容でも結構であるが、何かご質問・ご意見がある方はいらっしゃるか。

【副会長】

【E委員】がおっしゃったように基本会議が上位に居て、プロジェクトチームの報告が上がってくる、といった関係性ではあるが、当然今期テーマから派生したプロジェクトなので、組織が分割されたわけでもなく無関係ではなく繋がりがあって、風土フォーラムの目的に沿ったものであるので、基本会議のメンバーにも、もしご協力いただける方は是非積極的に関わっていただきたいなと思う。

【会長】

補足であるが、先ほどの町長との面談についての話でも少し触れたが、この基本会議と芸術祭の関連性を持たせるという意味でも、ぜひ「自然環境」というところも何か取り上げていただけたら良いのかなと思っている。SDGs的な観点で現時点でも取り上げられるようなので、そういったところも繋がってくるのかなと思う。ベンチの企画で何か廃材を利用するとか、そういった形になるかと思われるが、何か今後のプロジェクトチームの会議においても「自然環境」について議題に組み入れていただければ幸いかなと思う。

【A委員】（ファシリテーター）

ベンチ企画に関するご質問があったが、もしお答えいただけるようであれば、お聞かせいただけるとありがたい。

【C委員】（プロジェクトチーム座長）

風土フォーラムの中のプロジェクトチームである、という位置づけが今後も継続していくということが今日この場で発表されたので、その意味はちゃんと町全体に伝えないといけないと思っている。町の予算は使っていないが、プロジェクトチーム「ざわざわ」はあくまでも町がしっかりバックについて活動を応援して支援して下さっているということは、語弊があるかもしれないが上手に伝えていきたいと思っている。結構いろんな意見もあり、安直にできないところなので、ゆっくりじっくり丁寧に、11月に向けて皆さんの知恵をお借りしながら動きたい。しかし、そういったこと

が何もなくても「ベンチを見たらわかる」という状態にできる力がアートにはあるのではないかと私は考えている。そこに「デザイン」の要素がもしかしたら入るのかもしれない。ベンチに何かしらサインなのかデザインが入ることで、それを見ればすぐに理解できるというところまで昇華できること、それがどのくらいの時間でできるかはわからないが、そういった流れを狙っていきたい。アーティストクリエイターの力を借りて、くどい説明をしなくても「良いね」とみんなから言ってもらえるようなところは、主催企画として目指さなければいけないし、目指したいし、やりたいと思っている。【F委員】いかがか。

【F委員】（プロジェクトチーム副座長）

私も軽井沢で実施する意義として、【会長】がおっしゃるような「自然を守る」「自然とともに生きる」という観点が大事だと思う。「自然と人間との共生」というコンセプトが縦軸にあれば、方向性はぶれないと思う。

【C委員】（プロジェクトチーム座長）

そもそも「なぜベンチなのか」ということをもう1度お話をさせていただくと、初回の基本会議で【D委員】が自転車のお話をされていたが、結局のところ自動車で町内を移動しているけれど、町内の活動範囲は10キロ圏内ぐらいであり、自動車でなければ移動ができないと思い込んでいる人も結構いる。そんな中、道中にベンチがあることで座りながら、歩きながら、自転車であっても休憩をしながら移動できる距離なんだということを意識的にしてみるということも狙えるのではないかと、というのがベンチのアイデアが出てきた背景である。もちろん、木も「今ある全部の木を切っただけではいけない」ではなくて、「剪定という形で木を切る手入れも、森を守るには必要」みたいなところの話から、「廃材はその後どうなるのか」と気になることが多いという状況で、まだ活かせる木、薪にくべるにはもったいないかもしれないという木が結構残っている現状があるので、それらをベンチのような形で、町の中に半永久的にそこにあるようなものに仕立てていくことが、もしかしたらその“循環”を意識することになるのではないかと考えた。そういう意味では全てが基本会議で取り組んでいるような「自然環境」を考える一つのツールになっていくということで、あえてベンチというものに企画を絞った。今日、これまでの話の流れから、もう1度このベンチ企画の経緯を紐解きたいなと思った次第なのでお話をさせていただいた。基本会議の

テーマと全く切り離れた企画というわけではないということで、よろしく願いしたい。

【A委員】（ファシリテーター）

その他よろしいか。

一点気になったので、私から質問させていただいても良いか。第2回、第3回と住民会議開かれるようであるが、共催企画、参加企画など参加される形によって参加対象となる会議が変わってくるようなことはあるのか。

【C委員】（プロジェクトチーム座長）

この2回の中で参加企画ぐらいの気持ちでいらした方もいらっしゃると思うし、3回目に共催企画ぐらいにガッツリ入ることを考えていらっしゃる方もいると思うが、イメージ的に第2回に集まった方々は、第1回に集まった方々のリピートであり、そういう意味ではクローズドな雰囲気であった。企画内容をしっかりと具体的にするために、公開で参加を呼びかけず集まっていた。具体的な企画である分、私達と一緒に走るような企画であろうという前提で資料を作っているが、もちろん参加企画にそのメンバーの方がそこまではガッツリというほどではないが、例えば、自宅の庭で自分の作品を展示するというぐらいのレベルで参加します、という参加方法もあり得るだろうと思う。第3回に参加される方々も、第2回に参加できなかったから、1回目に来た方々がかなり具体的な企画にして持ち込まれることも想定されるので、その場合は自分たちでもう協賛も取ってくる可能性もあるとか、あるいは取ってるみたいの方がいらっしゃる共催になる可能性もある。どの企画がどちらの方向に動くかはまた進んだ段階で決めていくことになるのではないかと考えている。

【F委員】（プロジェクトチーム副座長）

少し補足であるが、葉山芸術祭の実施方法を参考にして進めている。葉山町は人口3万人くらいで観光地であり、新旧の移住者含めて軽井沢と似た性質の町である。2023年で31回目となるため、それだけ長く継続しているコツなども学ぶ必要があると感じている。多様な人が気軽に参加できる仕組みを考える中で、「主催企画」「共催企画」「一般企画」という3つの軸で進めている。参加の間口を広くするための工夫である。

【C委員】（プロジェクトチーム座長）

3回目の住民会議で、各企画の言葉の意味や芸術祭の形についてゼロからお話をする際に、もう一度プロジェクトメンバーともこの言葉を整理して、皆さんにお伝えできるようにしていきたいと思っている。よろしくお願ひしたい。

【A委員】（ファシリテーター）

それでは2号議題の「プロジェクト報告等」を終わりにさせていただいて、議事については以上とさせていただく。

【事務局】

事務局からの連絡であるが、冒頭に会長からお話があったように、4月からは「都市デザイン室」ではなく「まちづくり推進室」が風土フォーラム基本会議の事務局を所管として受け持つようになる。これまで通り町長と会長、あるいは皆さんにお話いただいた通り、この第4期基本会議の活動、もしくは風土フォーラム、きっかけはいろいろあると思うが、進めてきているのは“住民の皆さん”であるということが主に置かれているので、行政の動向に左右されず、皆さんの力で育てていって欲しいと思っている。所管が変更となることについて、何か質問があればお受けするがいかがか。

<一同、特に意見等なし。>

【事務局】

これまで通り、情報の発信等ではプロジェクトチームも基本会議も含めて課題があるかと思うが、まちづくり推進室に変わっても基本的に事務局としての動き方は変わらない。しかし、変えていくことは可能だと思っている。皆さんの意見によって新しく作り上げていくことは可能だと思うので、ぜひ忌憚なくご意見いただければと思っている。皆さんが目指す軽井沢像は多分一緒だと思っているので、この先もどうぞよろしくお願ひしたい。部署メンバーも新しいメンバーに変更となるが引き続きよろしくお願ひしたい。

【会長】

先ほどお伝えした通り、次回の開催は7月ということで、また細かいところはSlackなどで皆様のご意見をお伺いしながら進められればと思う。